

12 / 26 波多野睦美 Ms 冬・パリへの旅

「冬・パリへの旅」と題した、フランス歌曲による波多野睦美の意欲的なリサイタル。暖色系の豊かな音彩をもつ辻ゆり子の陰翳深いピアノ伴奏が波多野に温かく寄り添い、見事なパートナーシップを見せた。瀟洒なフランス歌曲に様々な想いを重ねて紡がれる波多野の歌は、まるで透明なプリズムから放たれる多彩な色調をまとった心のベクトルのように。感情はときに弾み、沈潜し、声色はまばゆいほどの明彩さから、はっとするような薄墨感まで変幻自在だ。フォーレ《マンドリン》で艶めく天真爛漫な歌い口を見せたかと思えば、アーン《クロリスに》では恋歌を繊細にささやき綴るような純朴さを表わし、ドビュッシー〈夕暮れ〉(歌曲集《抒情的散文》から)にいたっては、人生の黄昏にも似た厭世感をしみじみと漂わせてじつに秀逸。プログラムの後半を彩った歌曲集《月並み》をはじめとするプーランクのウィットに富んだ数々の歌曲では、光と翳^{かげ}、純真と退廃、閑寂と躁狂といった相反する要素を妙々と歌い上げ、類まれな実力を遺憾なく発揮した波多野。その親密かつ余情に満ちた歌心は、余人に代えがたい波多野の現し身ともいうべきかけがえのない輝きを放っていた。 ●村田英也

会場＝兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール／出演＝辻 ゆり子 (p)／曲目＝フォーレ《イスパハンのぼら》、アーン《クロリスに》、ドビュッシー《抒情的散文》から、プーランク《月並み》《愛の小径》、他